

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ がんと緩和ケア
- 2 対象 高1～3年生、医療系志望者等
- 3 専門医 和泉 典子 氏(内科医)
- 4 実施月 6月
- 5 内容(キーワード)
もしバナカードによる
ワークショップ及び講演



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*緩和ケアを単なる看取りととらえるのではなく、生きることの意味や病気に対する社会の在り方について、自分ゴトとして考える機会となった。

②校内の組織づくりについて

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*探究学習事務局職員を中心に、協力し合いながら必要なマンパワーを確保した。また、企画立案の経験の少ない世代に対して、継続を前提とした企画の継承について考えさせる機会となった。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- 有効だった
有効でなかった

<その理由>

*生死に関わる内容は、非常にデリケートに取り扱う必要があるが、事前の打ち合わせにより、学校における取り組み方が明確になった。また、高校と大学、医療機関といった、異なる立場からのアプローチの調整は今後とも必要となるため、高校にとっても非常にいい経験となった。



〔受講者の感想など〕

- もしバナカードで「死」をあつかうことで、自分の「生」について深く考えることができた。
- 緩和ケアが単なる看取りの医療ではなく、希望の医療だと分かった。

〔教科やその他の指導との関連性〕

○がん教育や人生会議と関連づけながら緩和ケアについて考えたため、医療の側面の他に、介護や健康づくり、社会保障制度などを、理科・公民科・家庭科・保健体育科の教科学習と関連させながら行うことができた。